

第2回 食に関する指導研修会

平成30年2月24日(土)愛知県教育会館にて、さいたま市民医療センター 小児科 科長 西本 創先生をお招きし、「食べて治す食物アレルギー」の演題でご講演をいただき、研修会を行いました。当日は141名の会員が参加し、食物アレルギーの基礎知識から最新の研究まで、食物アレルギー対応について学ぶ大変有意義な研修会となりました。



1. 食物アレルギーの基礎知識・アレルギー事故の事例

食物アレルギーの血液検査にはIgE抗体検査が用いられますが、検査が陽性であっても、実際に食べて症状がでるのは一部です。治療と管理は「正しい診断に基づいた必要最小限の原因食物の除去」を原則とすることが、子どもの豊かな食生活のためには重要であることを知ることができました。

【西本創先生】

また、牛乳アレルギーの子どもの食物アレルギー症状を起こした動画を見ることで、実際に事故が起きた時の対応について確認することができました。大切なことは、一人で対応せず人を呼ぶこと、その場から絶対に離れないこと、マニュアルに沿って対応をすること。また、子どもを早く病院に連れて行くために、保護者とは病院で落ち合うこと、重症化や急変の判断をするためには、座らせて話をしながら子どもの様子を見ることなど、具体的な対応を学ぶことができました。

特に、調布市の給食での食物アレルギー事故は、会員一人一人が自分ならどのように対応するかを考えながら聞くことができました。食物アレルギー対応は一人で行わず、組織で対応することの重要性を改めて考えさせられる事例でした。

2. 食物アレルギーの把握方法・対応

食物アレルギー対応では正確な情報把握と共有が重要であり、学校生活管理指導表に基づいた対応が原則となっています。診断根拠が「IgE抗体検査等結果陽性」のみで提出された場合には、「食物負荷試験」のできる専門医への相談を助言することも重要であると同じでした。学校での給食対応は、原因食物の完全除去を基本として作業を単純化し、安全を確保することが事故を防ぐことにつながることを再確認しました。



【研修会の様子】

3. 食べて治す食物アレルギー

乾燥などで荒れた皮膚からアレルゲンが入ることでアレルギーになるということ、逆に専門医のもとでアレルゲンを含んだ食品を口から食べることで治すことができるという経口免疫療法の研究結果には、会員の多くが驚きました。

食物アレルギーをもつ子どもたちが、生涯、充実した社会生活、豊かな食生活を送ることができるように、子どものうちに専門医の指導を受け、必要最小限の除去で原因食物を可能な限り食べられるようにしていくことが大切だということ学びました。

《参加者の声》

動画での事故発生時の対応が特に印象に残り、自分の対応を振り返りながら講演を聞くことができました。子どもたちの健やかな成長のためにも、根拠に基づいた安全な食物アレルギー対応を行っていきたく強く思いました。